

樽前山

1 概況

顕著な地震の増加はありませんでした。1996 年以降地震活動が活発化しており、A 火口をはじめドーム周辺では熱的活動が活発な状態となっています。

2 噴煙活動の状況

A 火口の噴煙の高さは 50~100m、B 噴気孔群および E 火口は概ね 50m 以下で推移しました。いずれも勢いは弱く平常レベルですが、噴煙の状況から見て高温の状態は継続しているものと推定されます。

3 地震活動の状況

地震回数は 2 日に 17 回発生しましたが、それ以外は 1 日あたり 0~10 回で推移し、顕著な地震の増加はありませんでした。震源はほとんどが従来と変わらず山頂火口原の浅いところ(海拔前後)と推定されます。火山性微動は観測されていません。

月別地震・微動回数(C 点)

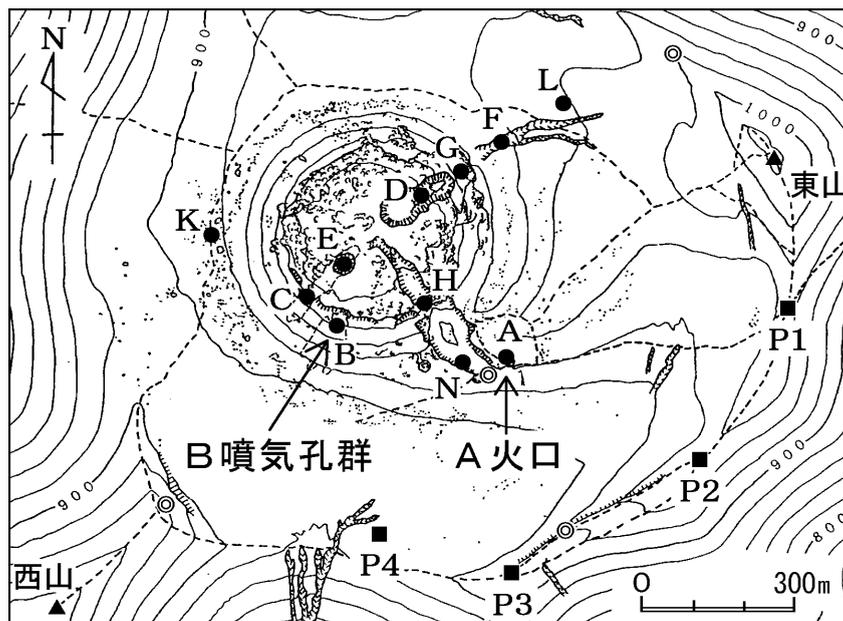
2002~2003 年	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	4 月
地震回数	99	74	50	40	25	36	32	64	35	64	51	90
微動回数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

4 地殻変動の状況

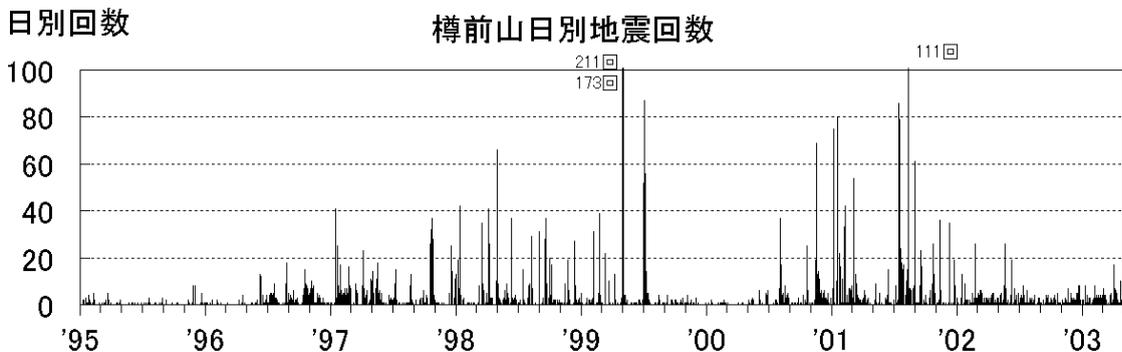
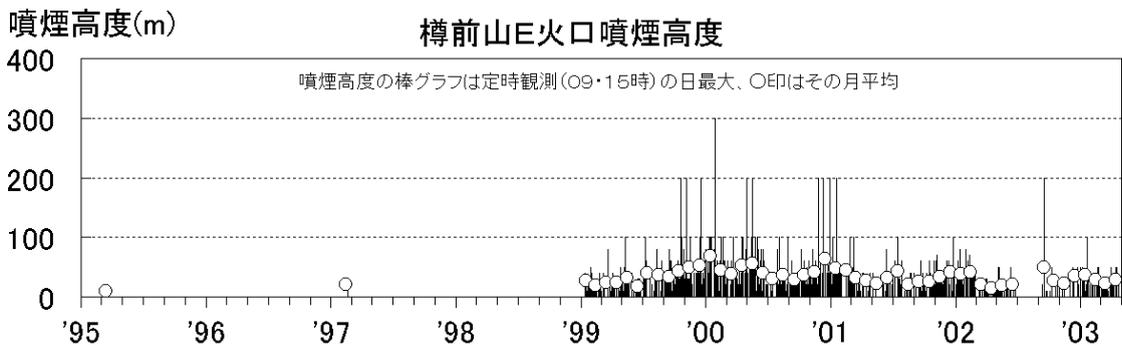
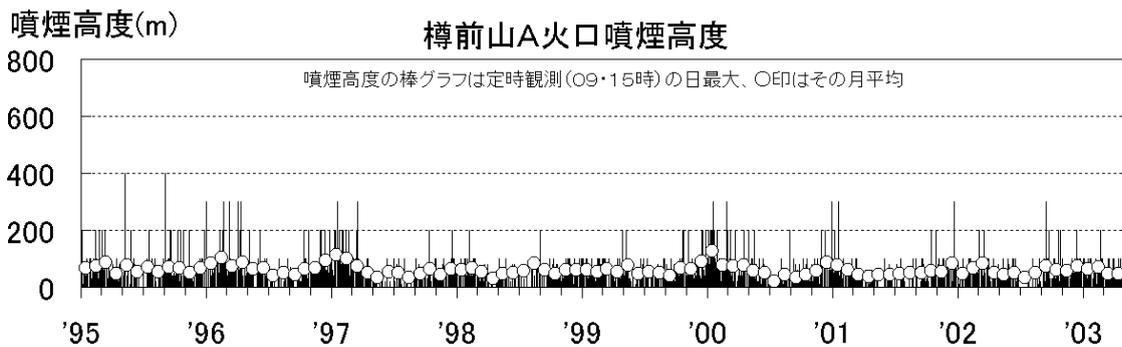
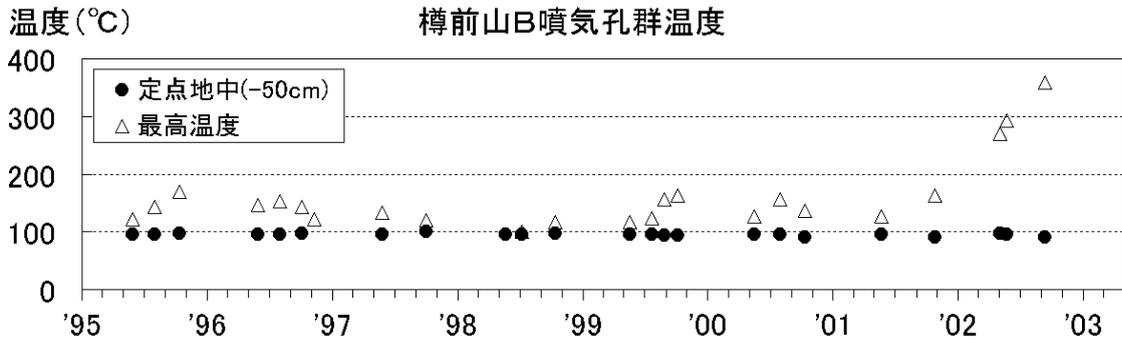
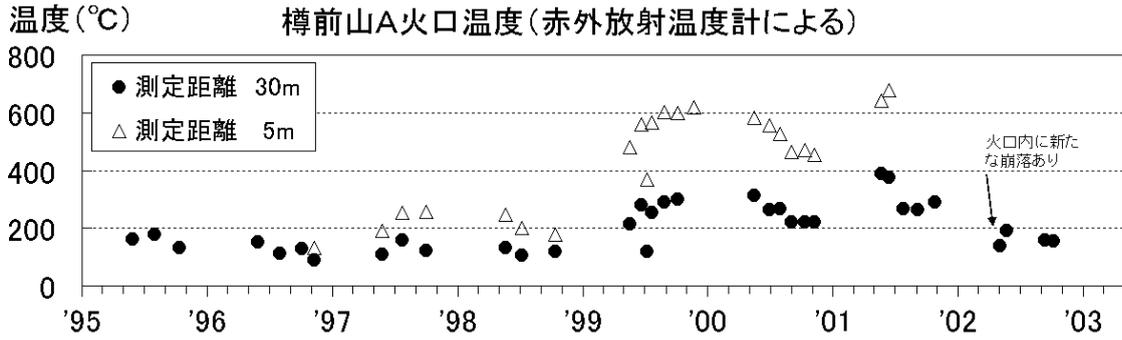
G P S 観測で見られる基線長の変化は主に季節変動が原因と推定され、火山活動に起因すると考えられる変化はありません。

5 上空からの観測結果

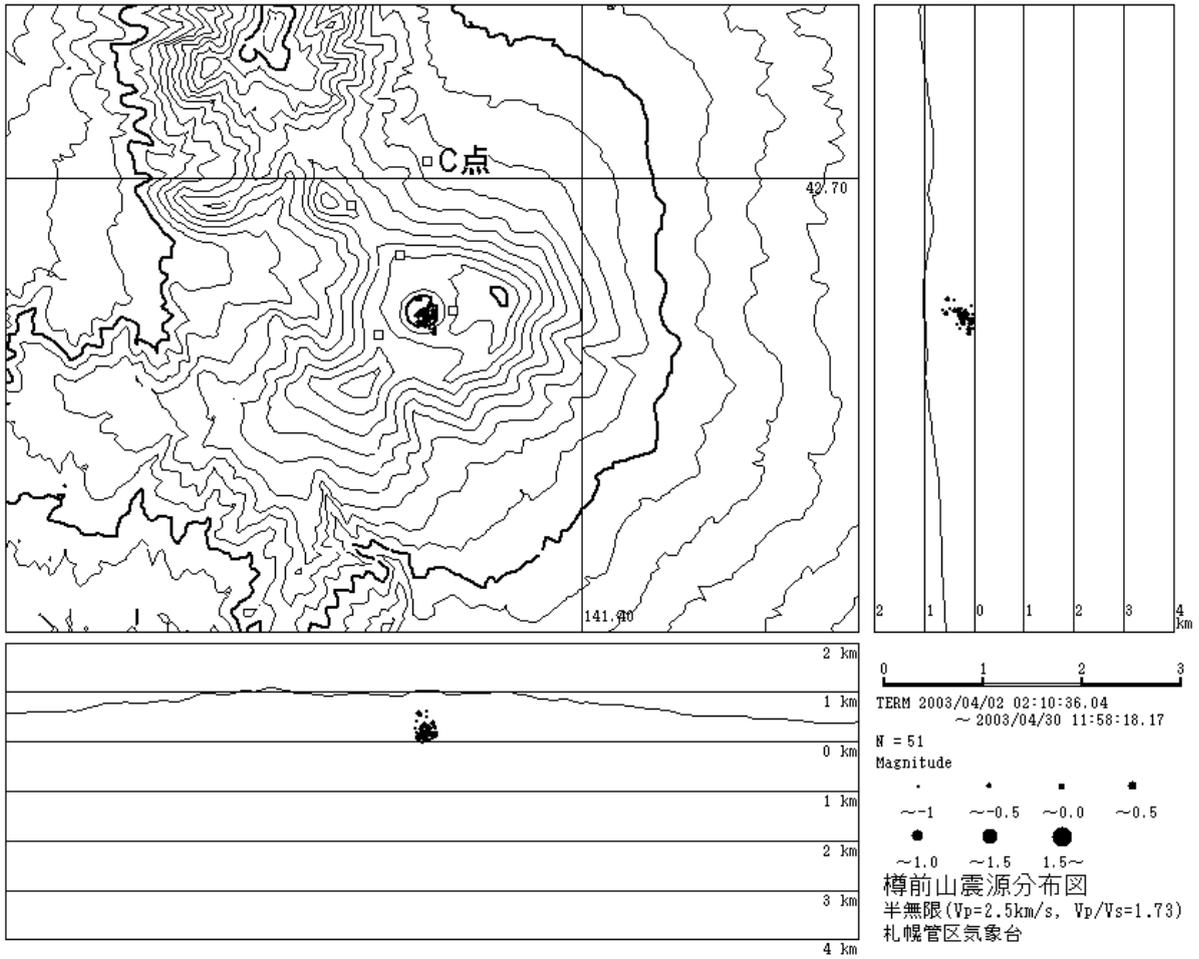
4 月 18 日に北海道開発局の協力により実施した上空からの観測では、A 火口、B 噴気孔群、E 火口から少量の弱い噴気が認められました。赤外熱映像観測では、A 火口の高温状態や B 噴気孔群の地熱域などが確認できましたが、地熱域の拡大などの変化はありませんでした。



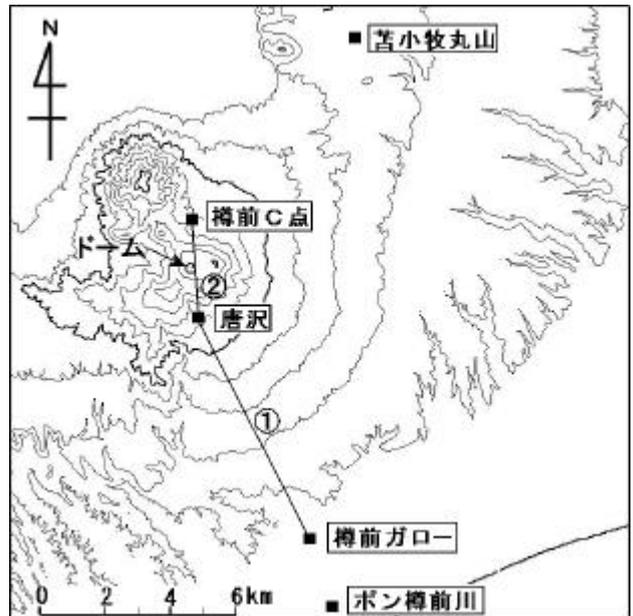
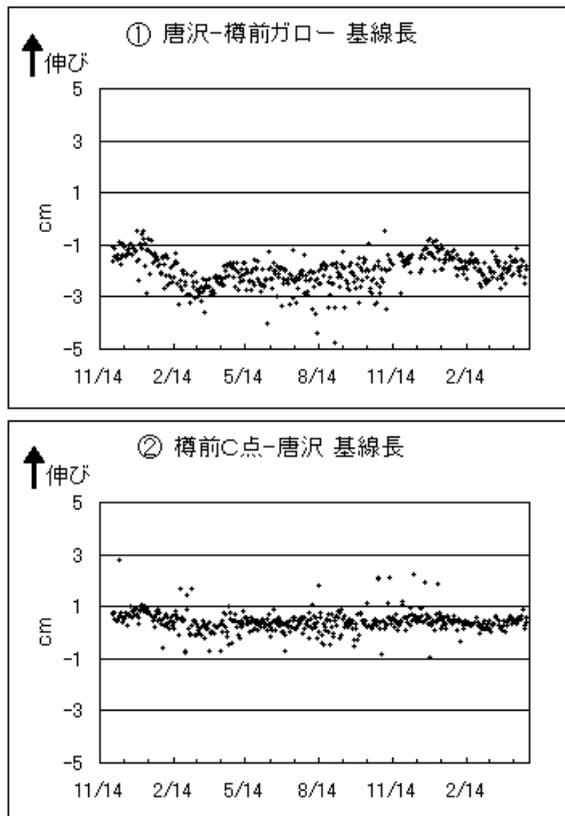
樽前山ドーム周辺図



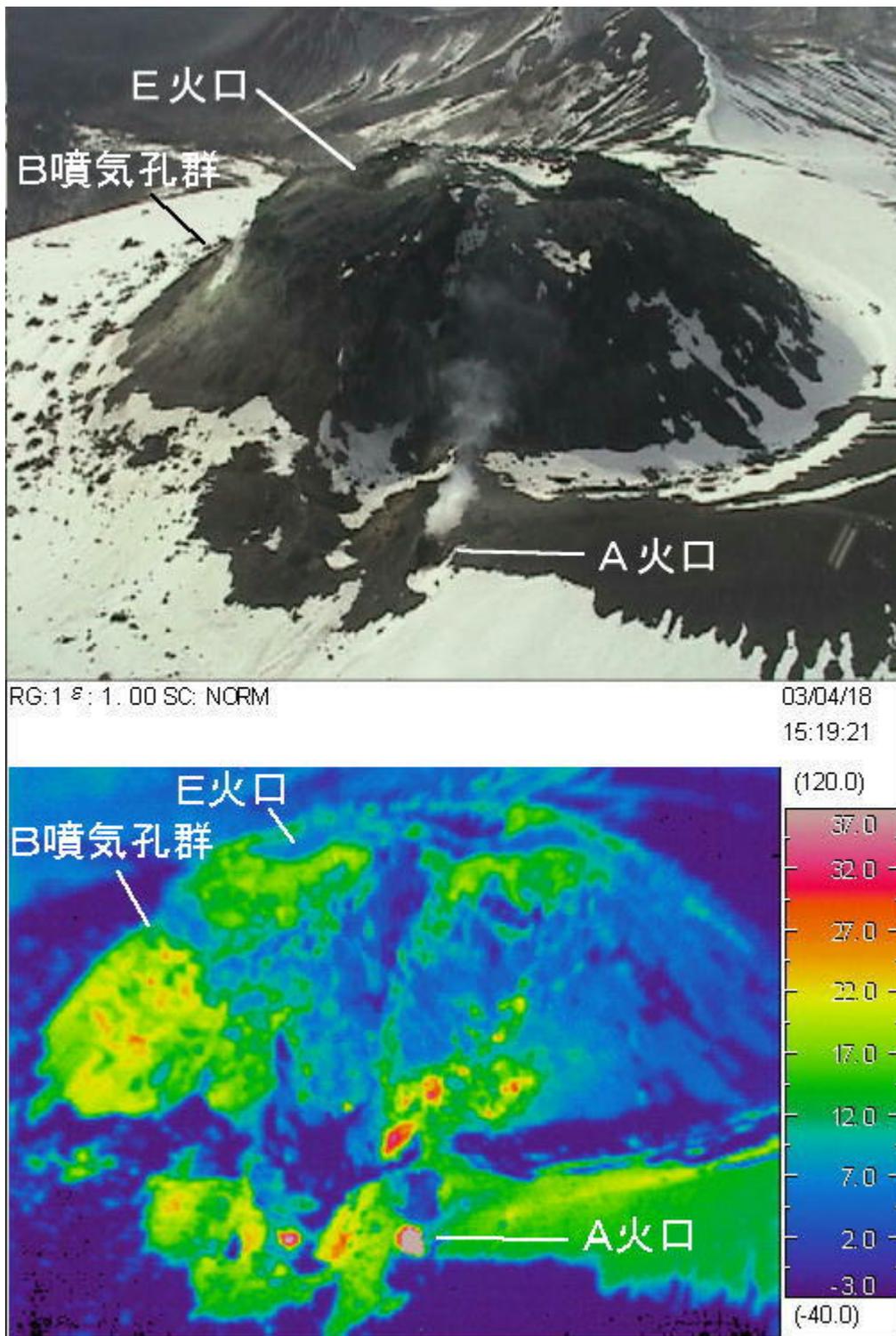
樽前山火山活動経過図(日別、1995年1月1日~2003年4月30日)



樽前山震源分布図(2003年4月1日~4月30日) 印は地震計



樽前山基線長変化(2001年11月14日~2003年4月30日)



南東側上空から見たドーム周辺の赤外熱映像
(2003年4月18日15時19分、天気晴れ：北海道開発局のヘリコプターから撮影)

A 火口はピンク色の高温域として表現されており、その周辺にも赤色の地熱域が認められます。しかし、B 噴気孔群周辺などに見られる黄色～赤の領域は日射の影響によるもので、実際の地熱域は見えていません。